

図書館だより

第8巻1号

通巻97号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

本を読まない学生なんて

わたしの
Tosho 感

教養部長 山根 対助 (国文学)

むかし、「本を読まなければ、バカになりますよ」と子供にさとす母親は珍らしくなかった。本を読めばリコウになるときまったわけではない。知識はあっても知恵には欠けると思われる人もたくさんいることはいる。

話は飛ぶけれど、フィリピンのマルコスという人物、あの人は学生時代はけっこう秀才だったらしいね。彼は学校の勉強とは直接かわりない本を読んでいたのだろうか。たとえば、歴史、権力の興亡についての本。「おごれる者も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし」こそ真理なのであって、いかに強大を誇ろうと、不動永遠と見えようと、権力は必ず衰亡するぐらいのことはわかりそうなものだが、マルコスは愚かな先輩たちの末路を知らなかったのだろうか。

本は、たんに知識をあたえてくれるだけではない。人としての生き方を教えてくれることもある

が、さらに自分を照らす鏡という意味をも持つ。それに気づかない存在を知恵のない知識人という。

またマルコスにもどるけれど、彼は十分な知識を持っていたのかも知れない。そうであるならば、「自分だけは例外だ」と信じきっていたのであろう。しかし、例外なんてありはしないのだ。アフリカや中東の王様たち、ソビエトのノーメン・クラトゥーラなども必ずいつかは地べたに引きずり落されるだろう。マルコ斯的な人間は、ほかにもたくさんいるのである。

それにしても、最近の学生は本を読まない。マンガは本ではない。杉浦民生さんは、学生時代、一日に三百頁読むことを毎日の義務として自分に課していたそうだが、一年に三百頁というのでは、ほんとにバカになるよ。本を読まない学生なんて、抜け殻みたいなものだ。

館・動・静

今年度は、図書館にとって、来年3月予定の新館への移転作業等を控え、多忙な年になりそうです。新館長、図書委員の諸先生はじめ利用者諸兄の御指導を得て、来たるべき来春の新図書館オープンに向けて、館員一丸となって頑張る所存です。よろしくお願ひいたします。

新館長、図書委員の御紹介

館長 橋本 雄一先生 (教養部・英文学専攻)

図書委員

法学部 山本 佐門先生

経済学部 渡辺 昭夫先生 (再任)

教養部 藤村 久和先生

工学部 小野 恭平先生

5年間在任された図書館長の吉川 宏先生、長い間、どうも御指導ありがとうございました。先生のおが図書館への御貢献、館員一同、深く感謝いたしております。また、旧図書委員の新山一範先生、葛西 忠先生、當麻庄司先生、お世話になりました。今後共、よろしくお願ひいたします。

丸谷才一の本 — 「才八」さん と言いたいくらい



「挨拶はむづかしい」(1985)と思わない人いるかしら？それで原稿を書く。書いたら、誰かに目を通してもらって、差しさはりがないかどうかを確かめて、その上でしゃべった方がいいんじゃないですか。その原稿を集めて十年かかって本になりましたと言う挨拶の見本帖の著者、丸谷才一60才。英文学者、評論家、小説家。ジェームス・ジョイス

スの「若い芸術家の肖像」、グレアム・グリーンの「不良少年」、エドガー・アラン・ポーの「盗まれた手紙」等の翻訳あり。「笹まくら」により河出文化賞(1967)、「年の残り」による芥川賞(1968)、「たった一人の反乱」で谷崎潤一郎賞(1972)、「後鳥羽院」(評論)により読売文学賞(1974)、「忠臣蔵とは何か」で野間文芸賞(1985)、「鼎談書評」木村尚三郎、山崎和正共著で文芸春秋読者賞(1984)とずい分貰っちゃって、本当におめでとうございますなのですが、このような純文学書き下ろし又は特別作品!!よりもさらに面白いのは随筆、文芸評論集の方で、「梨のつぶて」(評論集)

1966、「女性対男性」(1970)、「男のポケット」(1976)、「遊び時間」(1976)、「低空飛行」(1977)、「コロンブスの卵」(評論集)(1979)等がお薦め品。イギリス文学をすこし齧り、(とご本人は謙遜している)小説と批評を書き、王朝和歌にいささか親しんだ経歴の副産物として生じたとあとがきで言う「日本文学史早わかり」(1978)は、これを読めば、日本文学史がみーんなわかっちゃったと思わせる一冊。1974年、日本語ブームを起した「日本語のために」とその続篇の「桜もさよならも日本語」(1986)では、国語教科書の問題点を指摘、さらに大学入試問題を批判するとして、東京大学、慶応大学、北海道大学の具体例を出して、煮ても焼いても喰えない言語道断の悪問題であると言う。一度読んでみようかしらという気になるでしょ。丸谷才八と言いたいくらい、多芸な著者が最もこだわっている日本語との関係を示してくれる、「文章読本」(1977)、「言葉あるいは日本語」(対談集)(1977)、どの一冊を読んでも現代日本語の複雑で広汎で厄介な全体像が見えてくるように思います。(K)

新着図書(選) — 教養

マイコンによる文献管理 私立短期大学図書館協議会編 日本図書館協会/雑誌で読む戦後史 木本至著 新潮社/人間の復権をもとめて M.デュフレンヌ著 法政大学出版会/飼いならされた人間と野性的人間 S.モスコヴィツシ著 法政大学出版局/認識論 P. V.コブニン著 法政大学出版局/ユダヤ神秘主義 G.ショーレム著他訳 法政大学出版局/合理的思考のすすめ P.T.ギーチ著 法政大学出版局/論理学の哲学 H.パットナム著 法政大学出版局/悪しき造物主 E.シオラン著 法政大学出版局/日本の思想家名言事典 伊藤友信他 雄山閣/奇蹟論・迷信論・自殺論 D.ヒューム著 法政大学出版局/暴力と聖なるもの R.ジラルール著 法政大学出版局/あの時、世界は一磯村尚徳・戦後史の旅—1~3 日本放送協会取材班編 日本放送出版協会/古文書の面白さ

北大路健著 新潮社/北海道創世紀 松井愈他著 北海道新聞社/スペイン内戦の研究 齊藤孝編 中央公論社/世界の街角実感レポート 日商岩井広報室トレードピア編 新潮社/汽車旅日本列島 種村直樹著 創隆社/ルノワールの家 池波正太郎著 朝日新聞社/アメリカ100年の旅 市岡揚一郎著 サイマル出版会/日本はアジアか 渋沢雅英著 サイマル出版会/アジアのなかの日本 飯塚浩二著 増補 中央公論社/逆説のソ連 木村汎著 人間の科学社/対応力—日本とアメリカの将来性— 総合研究開発機構編 筑摩書房/世界の難民 緒方貞子他編 明石書店/現代と戦略 永井陽之助著 文芸春秋/日本外交百年史秘録〔復刻版〕国民審議調査会/マンション法読本 丸山英気編 三嶺書房/捜査の構造 田宮裕著 有斐閣/経済人類学の現在 F.ピヨン編 法政大学出版局/石器時代の経済学 M.サーリンズ著 法政大学出版局/経済学の思考法 J.R.ピックス著 岩波/

アイヌ、神々と生きる人々

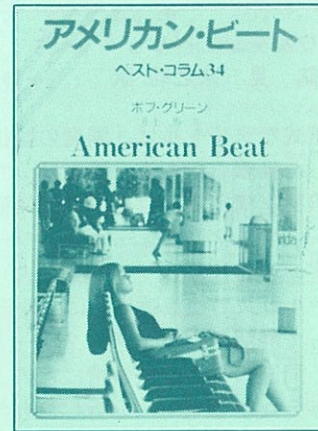
藤村久和 (福武書店: 1985)



開道百余年、北海道の歴史はまだ浅いと言われているが、それ以前からこの地に住んでいるアイヌの人たちの誕生から死までの一生の風俗習慣を通して、彼らのもつ人生観・宗教観を平易な言葉で解説している。著者は特に精神面では客観的で寛容さをもつ民族であると随所に語っている。現在、物質文明が進み、多様な人間関係の中で生きている私たちは損得においてはとかく自己本位になりがちだが、この精神は民族を越えた人間本来の姿であると考えさせられた。同じ北海道を郷土とする私たちが、内面からアイヌの人たちを知るために貴重な一冊だと思う。(O)

アメリカン・ビート

ボブ・グリーン (河出書房新社: 1985)



34編からなるこのコラム集は、1970年代後半から、『エスクワイア』・『シカゴ・トリビューン』・『シカゴ・サン・タイムズ』等に連載されたコラムのなかから選んで編まれたものです。

著者のボブ・グリーンは、1947年生まれの39才、いまやアメリカを代表するコラムニストとして活躍しています。ニクソン元大統領へのインタビュー、殺人者スペック、そして野球少年の夢と挫折などが語られ、アメリカ、そしてアメリカ人を知るうえでも素晴らしい一冊です。また著書には育児日記 (Good Morning, Merry Sunshine) など7冊が刊行されている。(C)

在日朝鮮人を語る1〜3 飯沼二郎編著 麦秋社/オーストラリアの移民 G.シェリントン著 勁草書房/G.H.ミードの動的社会理論 M.ナタンソン著 新泉社/ロボット症人間 L.ヤブロンスキー著 法政大学出版局/80年代と日本人 日本放送協会放送世論調査所編 日本放送協会/社会思想史 大河内一男著 有斐閣/日本人の職業観 日本放送協会 世論調査所編/労働の社会心理 M.アージル著 法政大学出版局/福祉国家への歩み M.ブルース著 法政大学出版局/なるほどザ教師 成清良孝著 匠出版/食料獲得の技術誌 W.H.オズワルド著 法政大学出版局/リーダーシップの条件 久住忠男著 時事通信社/図形と文化 D.ペドウ著 法政大学出版局/図説われらの太陽系1,2 P. Moore 他著 朝倉書店/ファール植物記 J.H.ファール著 平凡社/これがハレーすい星だ 日本放送協会産業科学部編 日本放送出版協会/世界古地図 C.ブリッカー著 講

新着図書(選) - 教養

談社/弁証法的唯物論と医学 G.I.ツアレゴロドツェフ著 法政大学出版局/百歳の科学 鈴木信著 新潮社/ヨーロッパの木造建築 太田邦夫著 講談社/自動車産業脱成熟時代 下川浩一著 有斐閣/マイクロコンピュータ入門テキスト 湯田幸八他著 オーム社/船の歴史事典 A.クカーリ他 原書房/テレビ・メディアの記号学 北村日出夫著 有信堂高文社/ヘンリー・ムア J.ラッセル著 法政大学出版局/垂直航空写真でみる北海道 奈良部理他編 メイト企画出版事業部/韓国伝統紋様 韓国デザイン包装センター編 南雲堂/音楽と中産階級 W.ウェーバー著 法政大学出版局/アルバン・ベルク T.W.アドルノ著 法政大学出版局/大世界劇場 R.アレヴィン他著 法政大学出版局/映画 E.モラン著 法政大学出版局

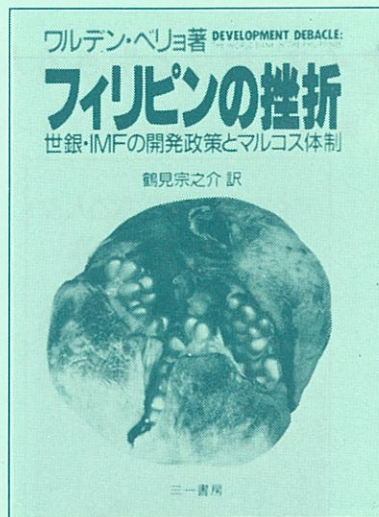
新生フィリピンを予言！

フィリピンの挫折 —世銀・IMFの開発政策とマルコス体制—

ワルデン・ベリョ
鶴見 宗之助 訳 (三一書房：1985)

原著の正式なタイトルは、「開発の挫折—マルコスを操作した世銀」である。著者は、サンフランシスコに根拠を構える、食糧開発政策研究所内でフィリピン・ソリダリティ・ネットワークを主宰するワルデン・ベリョ（フィリピン人）である。本書は、マルコスの独裁政権下に、世銀、IMFの誘導によって展開されたテクノクラートの経済開発政策が、同国の社会経済事情にどのようなインパクトを与えたかを克明に分析したものである。本書の最大の特徴は、マルコス体制下で、世銀内からの内部告発として、秘かに、行外に持ち出された膨大な^①資料を重要な手掛りにして、経済分析がすすめられた点である。また、本書は、秀れた反体制の書でもあり、自由と民主主義を標榜するマルコス独裁政権が、その標榜とは裏腹に、如何なるプロセスで一般大衆を塗炭の苦しみに陥れ、私財を肥し、またそれに世銀とIMF、米国、日本などがどのようにかかわったかを完膚なきまでに暴露したものである。本書のフィリピン経済の分析は、60年代後半から1981年までの期間を対象にしている。

その後、フィリピン経済は、ベニグノ・アキノ氏が1983年8月、マニラ空港で銃弾に斃れて以来、



今日の“無血革命、後に至るまで、悪化の一途をたどっている。フィリピンに世銀とIMFが指示した輸出主導型工業化促進のための外貨獲得手段として、輸出作物が果たす役割はきわめて大きい。しかし、現在では輸出主導型工業化の挫折とともに、同国にとってとくに重要な基幹輸出作物である砂糖、ココナッツ油の生産費の高騰・国際価格の急落によって、それらの産業としての基盤が根底から脅かされている、と著者はいう。

今回の“革命、の成立した背景にある悩めるフィリピン経済の実情を知り、アキノ新政権による今後の経済再建策を占うのに絶好の書である。折しも、「マルコス資産文書」の公表によって問われている日本企業と経済援助の行くえにも示唆を与えてくれる。(S)

新着図書(選) — 経済

大野英二先生還暦記念論文集 川本和良他編 未来社／保守主義研究 北岡勲著 御茶の水書房／現代ソ連論 菊地昌典著 筑摩書房／不確実性下の経済・経営システムの研究 北原貞輔編 九州大学出版会／経済学入門 千種義人著 増訂版 同文館／経済学新講 千種義人著 増訂版 中央経済社／経済数学講義 丸山徹著 慶應通信／経済学形成史 杉原四郎他編著 ミネルヴァ／経済学史講義 内田義彦著 未来社／アダムスミス研究 水田洋著 未来社／共同体論争と所有の原理 福富正実著 未来社／産業経済学 M.P. マーシャル著 関西大学出版部／近代経済学の歴史 上・下 A. マーチャーシュ著 大月書店／経済発展理論 P.A. ヨトポロス他著 慶應通信／再生産論 水谷謙治著 有斐閣／現代資本主義と市場 千葉僚郎(等)編著 ミネルヴァ／国民所得分析 C.L. シュル

ツ著 東洋経済 1965／近代日本とイギリス資本 石井寛治著 東大出版会／明治大正期の経済 中村隆英著 東大出版会／日本経済 中村隆英著 東大出版会／ゼミナール日本経済入門 日本経済新聞社編／西洋経済史 松田智雄編 青林書院新社／金融資本と社会化 松葉正文著 有斐閣／社会主義経済の現状分析 中央大学経済研究所編 中央大学出版部／戦後アメリカ経済論 上・下 M. フェルドスタイン編 東洋経済新報社／マクロ経済政策 土屋六郎他著 中央大学出版部／経済政策論 宇野弘蔵著 改訂版 弘文堂／日米経済関係 金森久雄編著 慶應通信／大恐慌期の日本資本主義 橋本寿朗著 東大出版会／ビジネスと資本主義 N.S.B. グラース著 日本経済評論社／経営思想史序説 裴富吉著 マルジュ社／21世紀の日本の株式会社像 総合研究開発機構編 東洋経済新報社／協同組合論 平實著 晃洋書房／日本の公企業 岡野行秀他編 東大出版会／経営文化の国際比較 G. ホ

北海学園100周年と図書館

ライブラリースペシャル

1985年に、本学は創基100周年を迎えた。一世紀に及ぶ学園の伝統を継承し、新たな二世紀へ飛躍的發展を期するため、幾多の記念事業・行事が計画され、実施に移されているが、ここでは、百周年を記念して既に建設中の新図書館と記念出版について概要を説明する。

新図書館の建設

百周年事業の一つとして新図書館が、研究棟の隣りに、1984年10月より着工され、現在、建築中で、建物の3階部分本体が本年11月末日までに竣工予定となっている。新図書館は、鉄骨造りの地下1階、地上6階建て、延べ11,084m²、総工費約30億である。地下1階には、道内外の古文書、とくに、松浦武四郎の真筆(書翰の草稿)、蝦夷島奇観など北方関係の資料の宝庫である「北駕文庫」が納められる。1階は、閲覧室、展示ホール、通路、書庫など、2階は、閲覧カウンター、閲覧室、開架書庫(2層)、雑誌ブラウジング、コピーコーナー、喫煙コーナーなど、3階は、閲覧室、グループ読書室、各種資料室、書庫、館長室など、4階には法学研究センター、大学院の演習室、院生室、教員の研究資料室など5階には研究室が増設される。6階には国際会議場など多目的に使える会議場などの諸施設が入る予定であるが、詳細については検討中である。



記念出版事業 学園史出版

北海英語学校の創立から今日に至る迄の百年を、年代別・各校別に写真で綴った写真集「創造の百年」(A4版157P.)が、昨年9月に刊行、英語版も、今年3月に発行予定。また、引き続き北海学園の各校史、「北海百年史」、「札倉65年史」、「北海学園大学35年小史」、「北見大学10年史」、「北海学園通史」、が順次、刊行されている。

学園誌「北海道から」の創刊

「創基100周年の学園から発信するニュー・オピニオン誌」として、全国でも珍しい学園誌で、かつ、広く道内外に訴えるオピニオン誌として「北海道から」(季刊、価700円)が去年9月に創刊された。1号の特集は、国際交流の光と影、2号はソビエトとつき合う法、3号予定は、北海道をより深く知るための本500冊(61、10)である。(S)

ーフステッド著 産業能率大学/日本経済の活力と企業行動 吉田和男著 東洋経済新報社/仕事とモチベーション V.H.ヴルム著 千倉書房/ビジネスパソコンソフト百科1~3 TKCパソコン専門委員会編 産業能率大学/企業組織と環境変化 唐沢和義著 慶應通信/新時代の企業ファイナンス 山一證券編 東洋経済新報社/日米企業の経営比較 加護野忠男他著 日本経済新聞社/営業部門のTQCハンドブック 出口仍康他著 産業能率大学/景気循環の機構分析 玉垣良典著 岩波/金融概論 石川常雄他編 有斐閣/現代信用理論批判 岡橋保著 九州大学出版会/現代日本の金融分析 古川顕著 東洋経済新報社/日本の金融市場と組織 池尾和人著 東洋経済新報社/アメリカの金融機関経営 田辺敏憲著 東洋経済新報社/国際金融読本 及能正男著 経済法令研究会/戦間期アメリカの対外投資 安保哲夫著 東大出版会/国際企業経営入門 貿易大学貿易研修センター

新着図書(選) - 経済

編 日本貿易振興会/カントリーリスク 渡辺喜一編 金融財政事情研究会/企業合理化と地方都市 田野崎昭夫編 東大出版会/社会統計学の基本問題 内海庫一郎著 北大図書刊行会/経済社会の変動と社会保障 社会保障研究所編 東大出版会/日本労働運動の先駆者たち 労働史研究同人会編 慶應通信/産業心理学 安藤瑞夫著 新曜社/スターリン体制下の労働者階級 塩川伸明著 東大出版会/社会科重要用語300の基礎知識 永井滋郎他編 明治図書/日本の産業政策 小宮隆太郎他編 東大出版会/日本農業の土地問題 磯辺俊彦著 東大出版会/日本の地力 農政研究センター編 御茶の水書房/都市の再生と下水道 中西準子著 日本評論社/成長都市 北海道大学ミックス研究会編 明文書房/巨大企業体制と労働者 トヨタの事例 小山陽一編 御茶の水書房

メルヒェン
童話の法学
 法の詩学
 —グリムの世界—

堅田 剛 (新曜社：1985)

原著者のヤーコプ・グリム (1785—1863) は、グリム童話を編集したグリム兄弟の兄として有名であるが、他にも彼は言語学者として「ドイツ語辞典全32巻」の編集、歴史学者として、「ドイツ神話学」、さらに、法学者として「ドイツ法古事誌」を書いている。グリムにいわせると、法学は計算問題ではなく、法的言語は数学的記号ではないという。彼にとって法的言語は、概念ならぬ象徴として、民衆の歴史に密着した詩的な言語であるべきなのだという。彼の生涯をつうじての試みは、歴史学も法学も言語学も、幾何学的方法によりは詩学的方法で語られねばならないということであり、歴史と法と言語のそれぞれにポエジーを確認することであった。

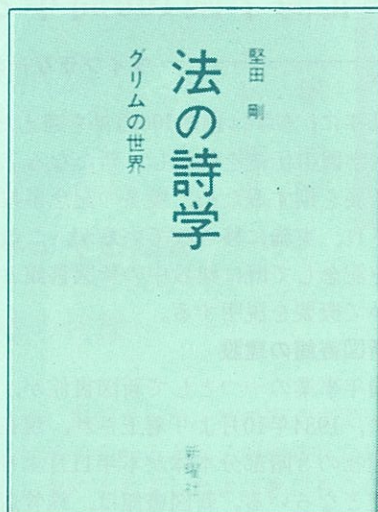
(グリムの童話、白雪姫の一節より)

鏡よ鏡、世界中でだれが一番きれい？

おきさきさま、ここではあなたが一番きれい。

でも山のむこうの、7人のこびとのところにいる白雪姫は、あなたより千倍もきれい。

グリムは、科学と詩学、論理と象徴のいずれが社会的現実を映すのにふさわしいかを、ロマン主義が実証主義に移りゆく時代において、問いかけずにはいらなかったのである。



このように法の実証主義的研究が主流になるにつれて、かつて法と詩の蜜月の時代があったことなどたちまち忘れ去られてしまった。しかしながら、法的関係は人間関係にはかならないとの、あまりにも自明のことがらが、今日、ようやく見直されつつあるように思える。グリムの世界においては、法とポエジー(詩歌)、あるいは政治とメルヒェン(童話)のあいだには、今日では見えなくなった水脈が隠されているにちがいない。グリムに導かれて、その生き生きとした流れを垣間見ることが、本書のねらいである、と著者はいう。

巨大なロマン主義者、グリムの全体像が浮び上ってくる本。法の実定性と歴史性をめぐるヘーゲルとの論争が面白い。著者は法哲学者、グリム生誕200年を記念して1985年に出版された。(S)

新着図書(選) - 法律

保守主義研究 北岡勲著 御茶の水書房／個人主義・全体主義・政治権力 E. ラズロー著 御茶の水書房／世界人権宣言と現代 斉藤恵彦著 有信堂／行政改革と公務員の権利 片岡昇他編 法律文化社／新風営法法令基準集 警察庁保安部防犯課監修 大成出版社／現代都市の行政と政治 水口憲人著 法律文化社／自治体行政の生産性 斉藤達三他 日本能率協会／軍縮の国際法 藤田久一著 日本評論社／平和事典 広島平和文化センター編 勁草書房／SIPRI年鑑1985 ストックホルム国際平和研究所編 東海大学出版会／法律ラテン語辞典 柴田光蔵著 日本評論社／利益法学 F. ヘック著 慶應義塾大学法学研究会／民主主義の法律原理 尾高朝雄他著 SE版 有斐閣／法学田中穂積他著 成文堂／自由と規範 長尾龍一編 東大出版会／イスラーム法の精神 真田芳憲著 中央大

学出版部／イギリス法 上・下 P.S. ジェームズ著 三省堂／憲法訴訟と違憲審査基準 藤井俊夫著 成文堂／芦部信喜先生還暦記念論文集 芦部信喜先生還暦記念論文集刊行会編 有斐閣／人民主権思想の原点とその展開 J. ヨンバルト 桑原武夫著 成文堂／憲法の焦点3 芦部信喜著 有斐閣／アメリカ憲法研究塚本重頼著 酒井書店／行政事件訴訟法大系 渡部吉隆他編 西神田編集室／民法学事始 石田喜久夫著 成文堂／民法研究 岩垂肇著 法律文化社／講義物権法・担保物権法 篠塚昭次他編 青林書院新社／マンション 一建築・売買・管理・賃貸 遠藤浩編 青林書院／担保法大系1～5 加藤一郎他編 金融財政事情研究会／債権保全入門 吉原省三著 金融財政事情研究会／家族法要論 文化書房博文社／中国家族法論 大塚勝美著 御茶の水書房／信託法判例研究 中野正俊著 酒井書店／新供託読本 水田耕一著 第6新版 商事法務研究会／不動産登記の理論と実務 中

Photo & Illust で I see English

—最新の図解英語辞典ア・ラ・カ・ル・ト—

○図解英語辞典というもの

ことばの上での定義ではよくわからない事物が、絵によって一目でわかるようになっている。英語の学習上、図がなければ、どのようなものか見当がつかないことが多い。とくに、外国の風物、動植物、衣服、家具などに関しては、図解英語辞典はなくてはならないものである。

英語図詳大辞典 小学館 1985

米国で出版された What's what の日本版。本格的な部分名称図解辞典として世界初。「何が何か(What's what)」が一目でわかる。3万語収録。各部分名称、複合語の後語からも検索できる索引が便利。

カラー図解英語百科辞典 学研 1985
(GAKKEN I.SEE.ALL)

魅力的で斬新な図解。中学生～社会人まで幅広い層の人がやさしく使える。15,000語収録。

カラー・アンカー英語大辞典 学研 1984
(Color Anchor Illustrated Encyclopedia of English Words and Imagery)

カラー図版3,500点、生活語、地名、人名、キャラクター、動植物、行事、神話、フォークロア、飲食物、アメリカ西部の言葉、観光案内など2万語収録。

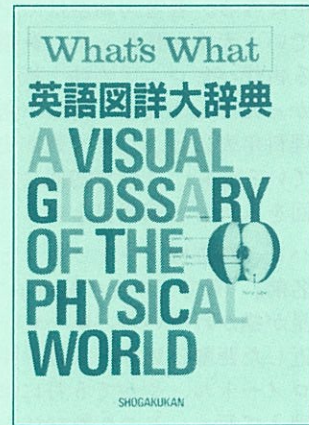
オックスフォード カラー英和大辞典 福武書店 1982 (FUKUTAKE OXFORD ILLUSTRATED ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY)

TRATED ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY)

The New Oxford Illustrated Dictionary (NOID, 1976)を原典とする。カラー写真・さし絵4,000点。英英辞典機能・語源解説・読んだり、見たり、楽しめる多目的の事典。

オックスフォード図解英和事典 オックスフォード大学出版局 1978 (Oxford English Picture Dictionary)

Full Color で2,000語を図解。家庭・職業・旅行・身体・科学・スポーツなど。発音記号付 Index あり。(S)



村均著 商事法務研究会／商法の基礎 倉沢康一郎著 税務経理協会／鴻常夫先生還暦記念〔論文集〕 江頭憲治郎他編 有斐閣／商法総則 小橋一郎著 成文堂／株式会社法律実務ハンドブック 田中誠二他 新版(3全訂版) 有信堂／新株発行等の理論と実務 中村均著 金融財政事情研究会／アメリカ株主総会 大阪証券代行代行部編 商事法務研究会／合併・株式保有と独占禁止法 植松勲編著 商事法務研究会／有価証券法入門 前田庸著 有斐閣／手形法小切手法 藤原雄三他編著 中央経済社／不渡処分の先例と実務 石井真司他著 新版 金融財政事情研究会／大塚刑法学の検討 中山研一著 成文堂／現代刑法論争 2 植松正他著 勁草書房／正当防衛の限界 山中敬一著 成文堂／酌酤と刑事責任 田中圭二著 成文堂／共犯論上の諸問題 植田重正著 成文堂／アメリカの刑事司法 E.H. Sutherland 他著 有信堂／刑法綱要各論 団藤重光著 改訂版 創文社／ソビエト犯罪学史研究

新着図書(選) - 法律

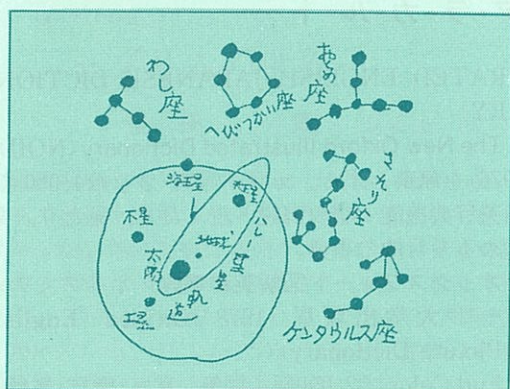
上田寛著 成文堂／日本刑罰史蹟考 重松一義著 成文堂／行刑の現代的展開 森本益之著 成文堂／図鑑 日本の監獄史 重松一義著 雄山閣／民事執行法の基本構造 竹下守夫他編 西神田編集室／債務者更生手続の研究 伊藤眞著 西神田編集室／民事調停法 石川明他編 青林書院／深津栄一先生還暦記念〔論文集〕 浦野起央他編 北樹出版／個人の基本権としての庇護権 本間浩著 勁草書房／実践金利計算マニュアル 岩崎和雄著 産業能率大学／銀行の周辺業務 金融財政事情研究会／新銀行取引書式集 堀内仁他監修 経済法令研究会／実務家のための逐条解説信用状統一規則 朝岡良平著 金融財政事情研究会／新形交換所規則の解説 東京銀行協会編 経済法令研究会／消費者信用法の形成と課題 長尾治助著 商事法務研究会

地球気づかう 宇宙の旅人

30回目 (観測史上)

76年ぶりの回帰

地球の皆様へ



<メモ>

最古のハレー彗星記録は『史記』という。B.C.239年がその年に当る。著者司馬遷は太史令だったという。今でいう天文台長だった。▶最近、大英博物館にある古代バビロニアの粘土板から、今まで記録になかったB.C.164年の記録が発見されたという。▶理科年表にはこれまで観測史上28回の記録がのっているから、これで29回に修正されるだろう。今回を入れると30回目ということになる。▶欧州のハレー探査機「ジョット」とはイタリアの画家の名前。「東方三博士の礼拝」には1301年のハレー彗星が描かれている。▶ハレー彗星と地球が最も接近した距離は地球と太陽の距離の半分、7000万キロメートル、やがて5月には海王星へのかなたへ消えて行く。その距離50億キロ。

いやあ、全く驚きました。私の近くまでジョットが出迎えに来てくれるとは！前回訪れた1910年には考えられないことでしたよ。▶でもこの76年の間に地球の皆さんは2度も大きな戦争に苦しまれたんですね。当時からくらべると緑もだいぶ少なくなったようですが。▶しかも、今は「核戦争」と背中あわせにあるとか。アフリカの飢もすさまじいでね。全く心が痛みました。▶ずっと、この地球を見守って来た私ですが、文明は進歩しても、人と人が憎しみあい、殺しあう姿は今も昔も変わっていないのは全く残念です。▶私が次に訪れるのは2061年ということになりますが、その時、地球はどうなっているのでしょうか。平和で緑豊かな楽園であることを祈らずにはおれません。ではごきげんよう。また会える日まで。(奈)

<ほん> 『NHK特集・これがハレー彗星だ』NHK 科学産業部 (1985)
「科学朝日」昭和61年1月には文献紹介がある。

新着図書(選) - 工学

寒地技術シンポジウム 1985 一講演論文集一 寒地開発研究会編/世界の生活史 15, 16, 東京書籍/学問への情熱 直良信夫著 佼成出版社/住宅白書1986 日本住宅会議編 ドメス出版/新北越雪譜 辺見じゅん著 角川書店/微分積分学 梶原壤二著 森北出版/土木技術者のための統計解析 田浦秀春著 吉井書店/境界要素法による計算力学 神谷紀生他著 森北出版/冬のエフェメラル 小林禎作者 北大図書刊行会/水流出解析 FORTRAN と BASIC による日野幹雄他著 森北出版/写真と図でみる地形学 貝塚爽平他編 東大出版会/目でみる山地防災のための微地形判読 大石道夫著 鹿島出版会/大雪山のヒグマ 小田島護著 山と溪谷社/計測法シリーズ7 日本機械学会編 朝倉書店/振動解析演習 星谷勝他著 鹿島出版会/わかりやすい振動の知識 宮田利雄著

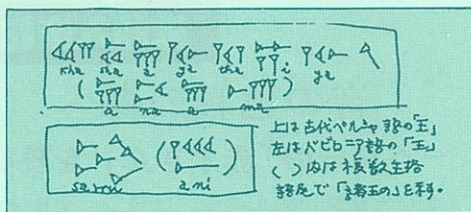
鹿島出版会/コンクリート構造物の塑性解析 W.F. Chen 著 丸善/有限要素法の基礎と応用 H.C. マーチン他著 培風館/土木のための有限要素法入門 大地羊三著 オーム社/構造力学演習 高岡宣善著 共立出版/マイコンによる有限要素解析 続 戸川隼人著 培風館/信頼性工学入門 真壁肇編 日本規格協会/BASIC による土木工学演習 宇津木愛正他著 森北出版/本邦各種粘性土の土構造と工学的性質 山内豊聡他著 多賀出版/測量 武田通治著 古今書院/測量学概論 武田通治著 山海堂/工事測量現場必携 全国建設研修センター編 森北出版/わかりやすいコンピュータによる工事積算 嶋廣二著 経済調査会/わかりやすい施工管理法の手引 宮川繁好著 大成出版社/最新・薬液注入工法の設計と施工 柴崎光弘他著 山海堂/道路工学 森満雄著 改訂 理工図書/橋梁の耐風・耐震 上原七司著 森北出版/私の水理学史 本間仁著 丸善/利根川の水利 新沢嘉

ロマンの三角形 (第1回)

解読された 「知恵の真珠」

19世紀はある意味で「古代へのロマン」の世紀ではなかったか。トロヤの夢を堀り当てた「シュリーマンの情熱」だけがそうだったわけではない。今から4000年前の古代バビロニアの楔形文字の解読も又、ロマンに満ちている。▶1802年、ドイツの高校教師グローテフェントがペルセポリスの三カ国語対訳碑文の一つ古代ペルシャ文字を「ダリウス、偉大な王、諸王の王、ヒュスタスペスの子、アケメネス朝の。」と解読したとき、彼は古代文明のまぶしい朝の光を招き入れたのだ。▶シュリーマン同様ドイツの学会は彼の業績に冷淡だった。彼の業績が認められたのは一世紀も経ってからである。奇しくも、イギリスの大佐ローリンソンが1835年にグローテフェントと全く同じ碑文を解読してから、楔形文字の解読の気運が高った。▶古代バビロニア文字も同様、 ∇ と \triangleleft の記号の組み合わせで表わされたが古代ペルシャ文字とは趣きを異にしていたので、その解読は難行した。▶なぜなら、古代ペルシャ文字はアルファベットであったのに対して、古代バビロニア文字は1850年代にイギリスのヒックスが解明したように「漢字かな混じり文」に似ていたからである。それは「表意文字」と「音節文字」の組み合わせになっていた。▶やがて図書館も発掘されて、そこから『ギルガメシュ叙事詩』や『ハムラビ法典』と共に『聖書』の起原を印した楔形文字の粘土板が出土した。「光は東方より」はやはり正しかったのだ。▶しかし、

古代バビロニアの数学



もっと重要なことはそれらの中に『数学のテキスト』が発見されたことだろう。数学者たちが感嘆したように古代バビロニアは「数学の宝庫」だった。▶彼らは ∇ と \triangleleft の二つの記号を文字にも数字にも用いた。彼らは時の単位「60進法」の創始者である。彼らの数学的力の高さは「等比・等差和列の和」「 $(a+b)^2$ の展開式」「二次・三次方程式の解」「三角形の面積」「円の周と面積」を求めたばかりか、すでに「対数」の概念を知っており、さらには「ピュタゴラスの定理」を知っていたことに示されている。▶かつてあの古代ギリシャの「巨人たち」に帰せられて来た「ユリイカの栄光」(ユリイカはギリシャ語で「我、発見せり」)はすでに2000年も前に彼らのものとなっていた!▶古代ギリシャにはじまる合理的科学精神の起源についての歴史を書き直す必要に迫られたのは当然であろう。人類がこうした認識に到達するのに4000年を必要としたとは!▶グローテフェントとローリンソンが開らいた楔形文字の解明がようやく粘土に眠った「知恵の真珠」を堀り当てたのだ。(世)

- 〈ほん〉『古代文字の謎：オリエント諸語の解読』 C. H.ゴードン(津村訳) 社会思想社 1979年
『楔形文字入門』 杉勇 中央公論社 1968
『粘土に書かれた歴史』 E.キエラ(板倉訳) 岩波書店 1958
『バビロニアの科学』 リュッタン 白水社 1962

芽統他著 岩波/水質調査法 半谷高久他著 丸善/工法別下水道推進工法実施例集 下水道管渠施工研究会編 山海堂/絵でみる下水道の計画・設計 斉藤健次郎他著 山海堂/都市のゴミ循環 ソーラーシステム研究グループ著 日本放送出版協会/建築美学 R. Scruton 著 丸善/ガウディを読む 中村公男著 現代企画室/建築技術者のためのコンピュータ利用 宮沢健二著 井上書院/EXPO '85 ARCHITECTURE 科学万博 つくば'85建築の記録 日本建築学会/世界の建築1~8 学研/フランク・ロイド・ライト全集4 F.L.ライト著 ADA EDITA/名句で綴る近代建築 谷川正己他 井上書院/建築構造計画チェックリスト 彰国社編/構造学再入門3 海野哲夫著 改訂 彰国社/鉄骨建築内外装構法図集 鋼材倶楽部 鉄骨建築内外装構法委員会編 技報堂/鉄骨構造 椋代仁朗他著 第3版 森北出版/パソコンによる中小鉄骨構造の設計と計算 坂本吉隆著 オーム社/鉄筋

新着図書(選) - 工学

コンクリート構造 福島正人他著 第4版 森北出版/新耐震設計法入門 藤本一郎編 オーム社/寒地建築教材 概論編 日本建築学会北海道支部編 彰国社/老朽マンションの保守・再生 福嶋孝之著 鹿島出版会/劇場の構図 清水裕之著 鹿島出版会/日本のソーラーハウス・ソーラービル スライド集-日本太陽エネルギー学会編/図解 VAN 入門 日本電気情報サービス株式会社編 オーム社/電波法規 幡野憲正著 改訂版 東京電機大学出版局/衛星通信 宮内一洋他著 東京電機大学出版局/IBMのすべて 竹田義則著 日本実業出版社/ICとLSIのことがわかる本 久野英雄著 日本実業出版社/マイコンによるデータ計測 江川幸一他著 培風館/dBASE III 入門 E.ジョーンズ著 マグロウヒルブック/MS-DOS TM 読本 菅木真治著 アスキー出版局

欧語入楽記

音の色彩の森へ

—ペローの「赤ずきん」を読む—

『グリム童話』のルーツ、フランスの作家ペロー Perrot (1682—1703) の『童話』Coutes から「赤ずきん」(le petit chaperon rouge) の一節。ここにはフランス語のエッセンスがある。▶「おばあさんは、なんて大きな腕、足、耳、目、歯をしているんでしょう！」と赤ずきんが言うと、オオカミは「それはお前を抱き、より早く走り、よりよく聞き、見て、それからお前を食べるため」というが早い赤ずきんをひとのみしてしまふ。『グリム童話』はこの先に狩人がオオカミを殺して赤ずきんを助けるが、ペローにはそれが無い。▶この会話には三つの言葉がくり返されている。〈Vous avez〉〈mon enfant〉そして〈C'est〉である。これはそれぞれ「リエゾン」「アンシェヌマン」「エリズィオン」に対応する。▶リエゾンは仏語では大抵発音されない子音が次にくる母音語頭単語と結合し、甦える。Vous avez は英語の you have だ。▶アンシェヌマンは発音される子音と母音のケース。エリズィオンは母音と母音が語をへだててつづくときに前の母音が省略されるケースだ。C'est は英語の It is。エリズィオンは冠詞の場合によく現われる。▶形容詞 grands と grandes は前から名詞を修飾する数少ないケース。普通は後から名詞を飾る。この場合は〈e〉ウが女性形を示す。つまり仏語では名詞はすべて男・女の別がある。定冠詞では男性形には le 〈ル〉、女性形は la がつく。▶〈e〉は普通〈ウ〉と発音されるが、è と é

グランドスラム	グ ラ マ ー
第 1 回	フ ラ ン ス 語

Le Petit Chaperon Rouge

- Ma mère-grand,
que vous avez de grands bras!
- C'est pour mieux t'embrasser,
mon enfant.
- Ma mère-grand,
que vous avez de grandes jambes!
- C'est pour mieux courir,
mon enfant.
- Ma mère-grand,
que vous avez de grandes oreilles!
- C'est pour mieux écouter,
mon enfant.
- Ma mère-grand,
que vous avez de grands yeux!
- C'est pour mieux voir,
mon enfant.
- Ma mère-grand,
que vous avez de grandes dents!
- C'est pour mieux te manger.

の時は〈エ〉と発音する。▶ t'emfrasser と te manger は代名詞が動詞の前に位置する例。独露語とはことなっている。▶複数形は—s とは限らない。yeax (目)のごとく—x 型もある。これは男性名詞に限られる。▶仏語で be 動詞は〈etre〉、have 動詞は〈avoir〉で、この二つの基本動詞に〈リエゾン〉〈エリズィオン〉の典型がある。さあ春だ printemps! 音の色彩を求めてメルヘンの森へ出かけよう。(乙)

〈ほん〉英語と比較してフランス語に入るのが一番よい『英語活用フランス語入門』白水社、1959年は格好の入門書。又、NHK フランス語入門の講師安田悦子さんの『ひとりて学ぶフランス語会話』第3書房、1977はリエゾン・アンシェヌマン・エリズィオンの訓練によい。又、初歩の入門書といえは『フランス語の初歩の初歩』平田伊都子、南雲堂、1980。

新着雑誌

北海道立文書館研究紀要 1: 1986+ / [金沢大学] 経済学部研究叢書 1: 昭61+ / 金沢大学国語国文 11: 昭61+ / 関西大学社会学部紀要 第17巻1号: 昭60+ / [日本大学文理学部] 研究年報 34: 昭61+ / [日本大学] 国際関係学部研究年報 7: 1986+ / [日本工業大学] 工業教育研究所報 14: 昭60+ / [大阪大学] 語文 第46輯: 昭60+ / 新放送文化、季刊 1: 1986+ / 創価女子短期大学紀要 1: 1985+ / 特許研究 (発時協会) 1号: 昭61+ / 図書館情報大学研究報告 第4巻1号: 昭60+ / 山口大学教養部紀要 人文科学篇 19: 昭60+ / 山口大学教養部紀要 自然科学篇 19: 昭60+ / [日本大学] Survey report (Institute of Business Research, College of Economics, Nihon University) no. 7: 1986+ / [一橋大学] Hitotsubashi journal of economics. vol. 26, no. 2:

Dec. 1985+ / Journal of the University of Durban-Westville. New series. no. 1-2: 1984-1985+



さくら貝の歌



さくら貝の歌

さくら貝の歌

さくら貝の歌

さくら貝の歌

この貝は

このぞの浜辺に

われひとり

拾い貝よ

ほのぼのし

うす紅染あるは

わが燃ゆる

さくら貝の歌

ほろほろと

通うかおらは

君恋ゆる

胸のうぶさみ

あゝなれど

わが想いは

ほろほろと

ついでに

果てぬ

八洲秀章 — 白い抒情への求道者

(やしま・ひであき)

去年、1980年の暮れもおし迫った30日、鎌倉の自宅で一人の作曲家が息を引きとった。その人の名前を知っている人は少ないだろう。▶北海道、開拓農家の二男に生れ、上京し、宗教音楽家を志したが、のち山田耕作に師事したという。彼の曲が「白い抒情への求道者」を想起させるのはそのためだろうか。▶「あざみの歌」「チャペルの鐘」「まりも」と共に親しまれた「さくら貝の歌」は想いを寄せた女性の急逝への惜別の情である。▶曲中「この貝は、このぞの浜辺に」とあるのは、彼

が若い頃下宿していた鎌倉由比ヶ浜をさすものと思われる。彼はそこで桜貝をひろい、悲しみをまぎらわせていたのであろう。▶作詩者、土屋花情も又同じような境遇にあったので、この話を聞いて「さくら貝の歌」が出来た。▶この曲は昭和24年7月にNHKラジオ歌謡として放送された。それは戦後の荒廃した心をうるおしたであろう。▶1915年生れ。本名は鈴木光男。65才だった。(彦)

〈ほん〉別冊太陽「青春抒情歌集」(日本のこころ 51) 講談社 昭和60年9月

△世界のことわざ—民族の知恵が語る

「酒」を断つのはむづかしい。やはり人々は飲みつづける。「飲んだことのあるものは飲むだろう」(フランス)だからだ。「酒が入ると知恵が出ていく」(ロシア)もあるが、ロシアの禁酒のすすめはその後どうなったのか。(言語 4月特集)

△いじめ深刻

東京、中野中学の鹿川君の死は「いじめ」の象徴的な出来ごとだった。その一方で教師の「体罰」もある。この二者は背反するの。塾に通う子供たちも増加の一途。教育は今大きな曲角にきている。「ロマン」を欠く「受験プロイラー」の大量生産をやめ手づくりの教育が必要なる。(世界 4月号)

ジャーナル・交差点

△啄木生誕100年

「やわらかに、柳あおめる北上の、岸辺に見ゆ、泣けとごとくに」啄木はいつも涙を流していたのか。やはり彼は多感な人だった。「新しき明日の来るのを信ずという、自分の言葉に嘘はなけれど」明日をみていた啄木でもあった。(短歌 3月号)

△ハレー、フィリピン、貿易摩擦……

ハレー彗星は凶か吉か。独裁者マルコスにとっては凶となった。かくてフィリピンにLサインのキノ新政権。昨年の米ソ首脳会談もどこへやら、ゴルフパチョフ提案けてレーガンの核実験再開。そのアメリカと日本の間も貿易摩擦でぎくしゃく。10兆円の対日貿易赤字は確実。ハレーは5月には彼方。

日本の読者にもなじみの深い『ガリヴァ旅行記』の作者ジョナサン・スウィフト (1667-1745) は、アイルランドの首都ダブリンのトリニティ・カレッジを卒業後、イギリス政界で政治家・外交官・著述家として知られたウィリアム・テンプル卿 (1628-1699) の秘書として、ロンドン南西のサリー州ムーア・パークで過ごしたことがある。

当時のムーア・パークには多くの文人・政治家が集まり、文明開花の気運に溢れていた。テンプル卿の文庫は世界の歴史書・文学書が網羅されており、青年スウィフトに豊かな教養を磨く機会をあたえた。スウィフトが二度目に滞在した1697年に書いたのが「図書館の本が、古代と近代の両派に分れて戦闘を開始する」諷刺と諧謔の作品『書物戦争』である。

1713年6月、スウィフトは聖パトリック大聖堂の首席司祭に任命され、ダブリンに赴任する。スウィフトは、ここで、マーシュ図書館の運営委員の一人として図書館とかかわりをもつことになる。マーシュ図書館は、ダブリン大主教ナーシサス・マーシュ (1638-1713) が、ダブリン市民が自由に利用できる図書館の必要を痛感し、1707年に独力で創設したアイルランド最古の公共図書館である。1982年7月28日の午後、わたくしはマーシュ図書館にムリエル・マッカーシー博士を訪ね、創設者マーシュに思いをはせて、語り合うことができた。聖パトリック大聖堂の隣りに位置するマーシュ図書館は、緑に包まれた美しい公園にして、清楚ななかにも275年の歴史の重みを見せていた。



Jonathan Swift



James Joyce

マーシュ図書館とゆかりがある作家に『若き芸術家の肖像』と『ユリシーズ』のジェイムズ・ジョイス (1882-1941) がいる。ジョイスはダブリンのユニヴァーシティ・カレッジ在学中にマーシュ図書館を利用しており、今も残されている来館者芳名簿 (1902年10月22日、23日欄) には、彼の名前と住所が記入されている。ダブリンの平凡な市民レオポルド・ブルーームの一日を「意識の流れ」に沿って写しだした作品『ユリシーズ』の構想は、1906年、ジョイスが23才のときにさかのぼるが、彼はマーシュ図書館を実名でつぎのように登場させている。

“Beauty is not there. Nor is the stagnant bay of Marsh’s Library when you read the fading prophecies of Joachim Abbas.”

今日、アイルランド史とジョイス研究の宝庫といわれるマーシュ図書館が、200年の才月を越え、スウィフトとジョイスを媒体として、見えざる糸でつながっていることは興味深い。

(本学事務部長・図書館事務長)

開館時間

本館

9:30~20:00 (月~金)

9:30~18:00 (土)

工学部分室

9:30~17:00 (月~金)

9:30~13:00 (土)

日曜祝日、創立記念日 (5月16日・金) は

休館いたします。

北海学園大学附属図書館報

図書館だより

Vol. 8 No. 1

(通巻 97号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
(011)-841-1161 内線 272~275

工学部分室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
(011)-561-2911 内線 64